

市民のあるべき居場所



● 市民が利用しやすく、蔵の街への流れをつくる



【計画敷地】 栃木県栃木市境町 / 敷地面積：7730 m²
 栃木駅と蔵の街並みの中間に位置し、蔵の街大通りと巴波川が交差する場所。車通りが多い蔵の街大通りに面し、路地に入ると人通りが少ない閑静な住宅街を取り囲む。※駐車場：敷地から北に向かって徒歩2分の旧警察署跡地を無料で利用可能

【栃木県栃木市】人口：156,930 (2021.12.31)
 ・栃木県南部に位置しており、群馬・茨城・埼玉の3県に隣接する地域である。
 ・街のメインストリートである「蔵の街大通り」や鯉が泳ぐ「巴波川」には見世蔵や土蔵造が建ち並び、今でも風情ある美しい光景が残る。

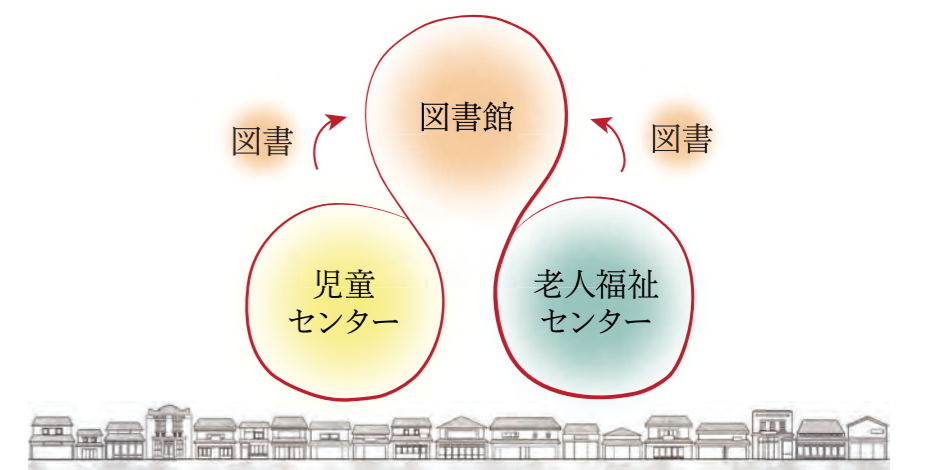
【問題点】
 ・「蔵の街」として発展してきた栃木市は、観光に特化した街並みへと変化してしまっている。
 ・変化した街並みに、地元市民は居場所の無さを感じている。

【敷地の選定理由】
 栃木駅と蔵の街並みの間は閑散としていて市民にとっても観光客にとっても退屈な場所。計画敷地の400m離れたところに市営の図書館があるが、それを移設して新築することで蔵の街に足を運ぶ中継地点としての役割を担う。

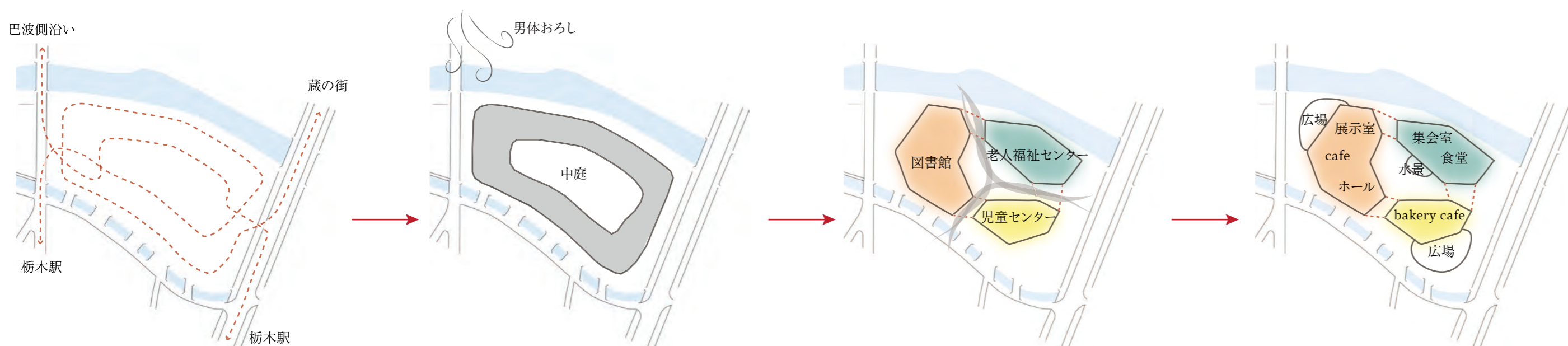


● 多世代の交流と学びの場

「集うきっかけ」が街の活性化につながる
 市民の新たな居場所となる図書館を提案する。街中に市民が集うからこそ街は活性化し、観光地として成り立つのではないかと考える。図書館の機能を図書館に移した児童センターや老人福祉センターを併設し、多世代が集い市民の交流と学びの場となるような施設を目指す。

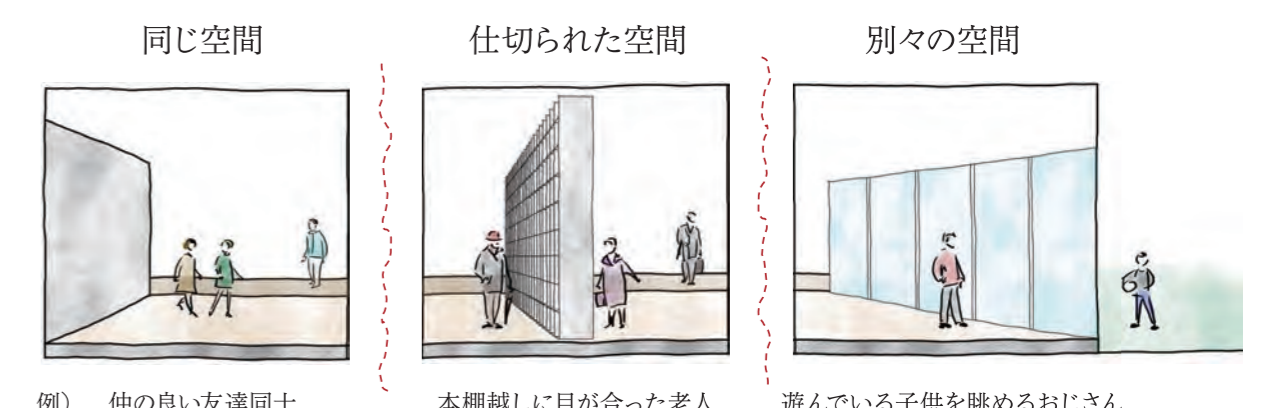


● 人々が集い、空間をシェアしながら市民の居場所をつくる



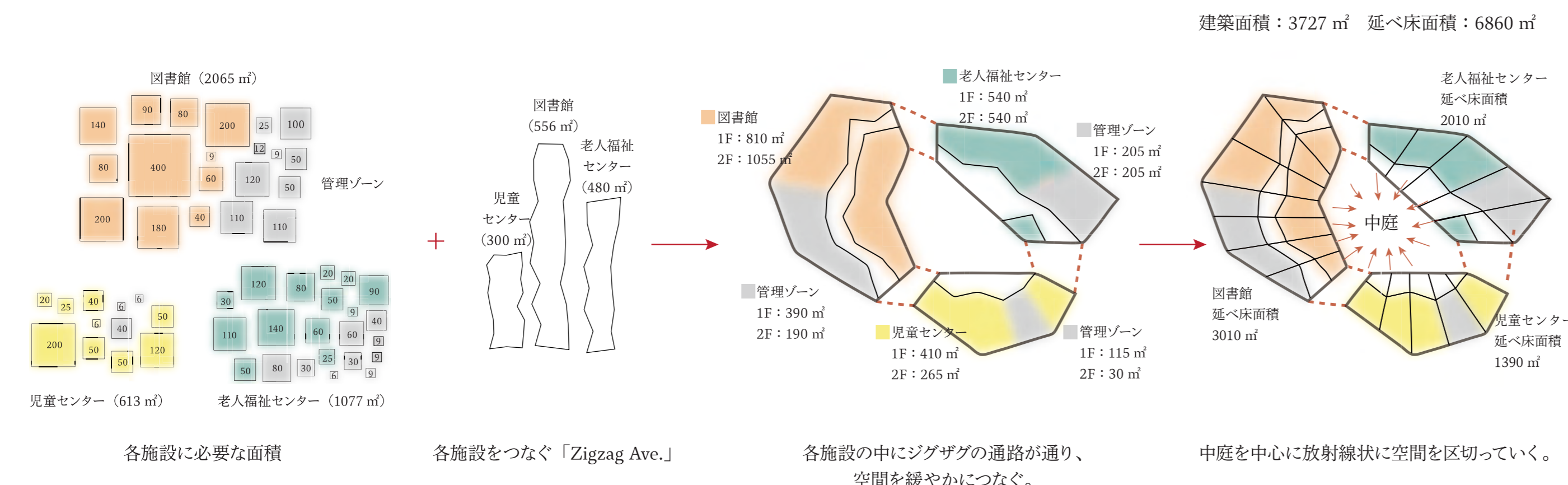
「栃木駅」と「蔵の街」からの人の流れを敷地に引き込むようにする。
 夏の激しい雷雨、冬の強い季節風をしのぐように中庭を設け、輪の形に市民の居場所をつくる。
 輪の形を3つに分け、それぞれに図書館・老人福祉センター・児童センターの機能を与える。
 各施設に人々が集うことができる空間をつくり、空間をシェアする。

● 市民が自分にとって心地よい居場所を見つけられる



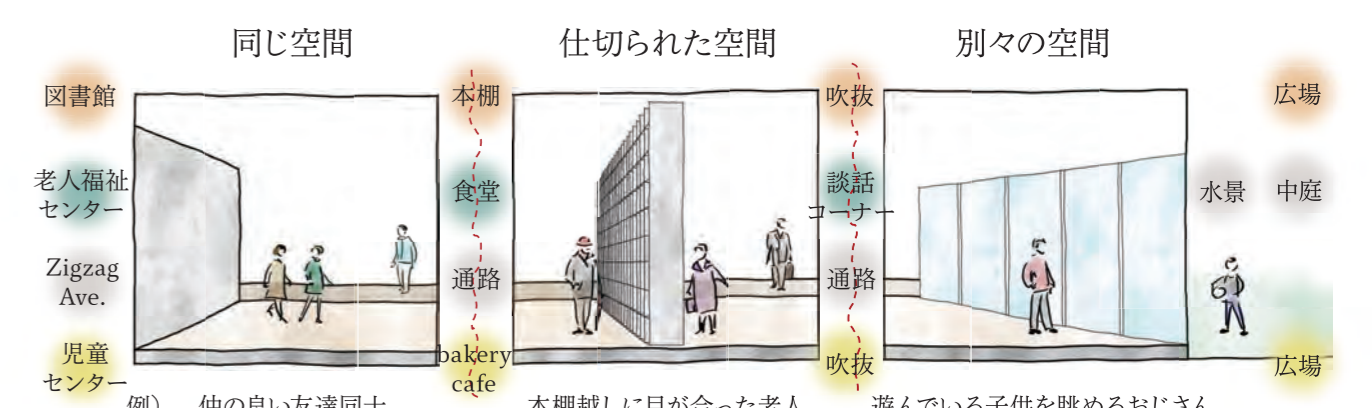
それぞれに色々な距離感がある。市民が自分の距離感を保ちながら過ごすことのできる3つの空間を用意して選ぶようにする。

● 中庭を中心に放射線状に空間を区切る



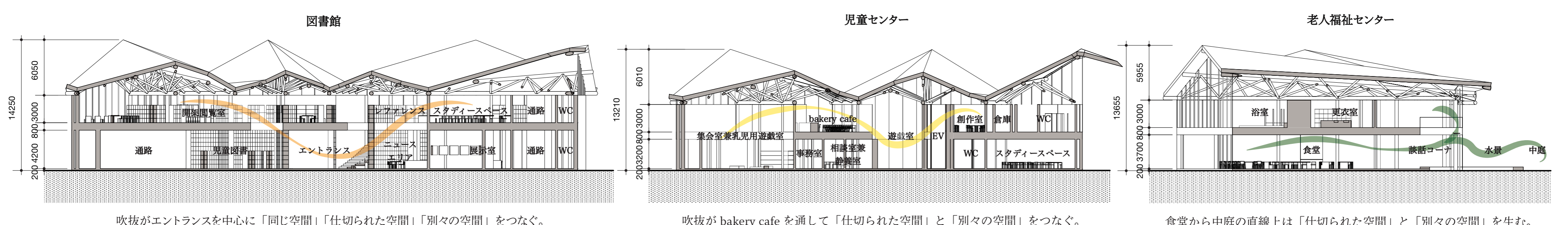
各施設に必要な面積
 各施設をつなぐ「Zigzag Ave.」
 各施設の中にジグザグの通路が通り、空間を緩やかにつなぐ。
 中庭を中心に放射線状に空間を区切っていく。

● 空間を緩やかにつなげる



3つの空間は、様々な「用途」によって緩やかにつながる。
 例・図書館2F開架閲覧室の学習スペースで勉強しながら本棚の間から1Fの様子を眺める。
 ・談話コーナーで待ち合わせしている学生が中庭にいる友達を見つける。
 ・bakery cafeでコーヒーを飲みながら吹抜を通して遊戯室で遊んでいる子供たちを眺める。

● 断面図 S:1/300



吹抜がエントランスを中心に「同じ空間」「仕切られた空間」「別々の空間」をつなぐ。
 吹抜がbakery cafeを通して「仕切られた空間」と「別々の空間」をつなぐ。
 食堂から中庭の直線上は「仕切られた空間」と「別々の空間」を生む。